

来賓挨拶

文部科学省研究振興局学術機関課長 芦立 訓

ご紹介をいただきました文部科学省の芦立訓と申します。これから知的好奇心を刺激されるプログラムの前に、私のようなもののごあいさつで、知的好奇心を逆に若干緩めてしまうことになってしまうことをまずお詫び申し上げたいと存じます。

今回、京都大学でこのようなシンポジウムを開催されましたことを私どもとしても大変心強く感じているところです。ここへお集まりの皆様がた、国立大学とお聞きになりますと、最初に思い浮かべられるのはやはり学部であり大学院なのかなという気がしますが、大学には学部や大学院といった組織以外に、本日このシンポジウムを開催しておられます附置研究所、あるいは研究センターといった研究中心の組織がございます。大学の研究といいますのは、皆様すでによくご存じのように、研究者一人一人がそれぞれの知的好奇心に突き動かされて、人類の知の探究ということをしているわけですが、分野によりましては、ある特定分野の研究者がグループを作って、組織的にボトムアップ型の研究をすることが非常に効果的な分野があります。そのような分野を中心に、京都大学をはじめ全国の多くの国立大学に附置研究所、研究センターが設けられており、多くの先生がたが日夜研究に邁進しておられるということでございます。

学部や大学院といったものは、学生の皆さんがたからの授業料も一つの大きな財源にして教育研究を行っているわけですが、附置研究所や研究センターといったものは、先ほど尾池総長のごあいさつの中にもありましたように、運営費交付金という形で京都大学に渡されている資金の中から主として運営されています。これは、先ほどもタックスペイヤーの皆様に、というお話がありましたように、すべて国民、あるいは企業の皆様からの尊い税金です。こうした税金を中心にして運営されている附置研究所、研究センターの先生がたが今回このような形で、広く社会の皆様がたに情報を発信していこうということは私は大変大事なことだと思っています。

とりわけ国の機関あるいは国立大学法人に対する税金といいますものは、日本全国津々浦々にお住まいのかたがたの貴重な税金ですので、今回のシンポジウムが東京だけではなく、遠大な計画で、日本じゅうさまざまな場所で開催しようということは、まさに京都の中にある京都大学ではなく、日本に立脚した京都大学というものにますます飛躍していくためにも極めて貴重な試みではないかと思っています。

今回のシンポジウムの演目を拝見しておりますと、門外漢である私のようなものにも大変わくわくするような内容のものとなっております。一流の研究者のかたが非常に興味あるテーマで、俯瞰的な視点から知的好奇心を刺激するお話をしていただけるものと私も大いにご期待申し上げます。実はこうした非常に分かりやすい、俯瞰的な人の心をつかむ研究の背景には、個々の研究者の実は極めて地道でこつこつとした修練あるいはトレーニングがあったということを忘れてはいけないと思います。また、現に京都大学において、若手の研究者の皆さんがたが、この時間も論文あるいは実験データに首を突っ込みながらいろいろな研究をしているということも忘れてはいけないと思っております。

私ども文部科学省は、こうした地道な研究に対しても、国民の皆様のご支援を頂きながら、引き続き財政支援を行っていくことが我が国の知的な懐というものを深くしていく意味で非常に大事なことであると思っております。このようなシンポジウムを通じまして、私どもに対してもご

支援を賜りますれば、大変ありがたいと思っております。

以上、開演前の貴重な時間をちょうだいして、お祝いの言葉に代えさせていただきます。本日はご来場まことにありがとうございます。